

# ネットワーク



△歴史と文化の古い神戸地区



## 富士山が映える みどり豊かなまち 神戸

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。3月は広見、4月は原田地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

神戸地区は、富士山麓と愛鷹山麓が接するところ、滝川流域に広がる地区です。神戸中部から今宮にかけては、高低差のある山村形態の地域で、神戸南部から一色にかけては、比較的平坦な台地が広がっています。今宮浅間神社の鳥居杉(樹齢千年以上といわれたが、台風によって倒れてしまった)や神戸のお曼陀羅さんなど、地区の歴史と文化は古く、十里木街道沿いの静かな農村集落としての経過をたどってきました。しかし、近年富士地域の産業の発展に伴いベッドタウンとして急速に住宅が建設されるなど、地区の現状は大きく変わろうとしています。今後は、住宅の増加に伴う生活環境施設の整備、主要地方道富士御殿場線を初めとする道路網の整備改良が必要となります。また、お茶、花木、樹苗などの生産農業や緑の保全と林業の振興丸火自然公園に続くレクリエーションの場としての活用が考えられます。



△写真左から京子さん、光江さん、喜恵子さん、美枝子さん、廣行さん、貴広さん、定男さん、そしてモオー子さん



### モオーモオー一家

神戸一 渡辺さん一家

おいしい牛乳を食卓に届けてくれるのは、酪農家の皆さん。今回は、神戸地区でただ一軒酪農を営んでいる渡辺さん一家におじやました。

牛舎に入ると「モオーモオー」と元気のよい鳴き声が聞こえます。渡辺定男さんは牛を飼って三十五年。昭和二十七年に地域の三十数軒と一緒に乳牛を飼いはじめましたが、今は神戸地区でただ一軒となつてしまいました。(ちなみに市内でも十三軒しかありません)

酪農家の大変なのは、朝が早いこと。三百六十五日毎朝五時半には搾乳を始めます。午前中は飼料をやったり、清掃をしたり、休む間もなく、午後三時にはもう一度搾乳をします。牛は現在二十二頭で、一日平均二百七十リットの牛乳を出荷しています。

定男さんは消防団の第二方面隊長も務め、家をあげねばならない日もあり、家族のチームワークは欠かせません。

牛も人間同様、荒っぽい牛からおとなしい牛までいろいろで、飼主の顔はみんな覚えていてのこと。渡辺さんちの三人のチビッ子(美枝子さん・京子さん・貴広君)たちも牛が大好きです。

長男の廣行さんは、「お産のときは感動的で楽しみです。今は生産調整があつて、いっぱい搾っても出荷できないのがちょっと寂しいですね。」と語ってくれました。